

# 石川県立美術館だより

平成14年2月1日発行 第220号



重文 緑地桐鳳凰文唐織 当館蔵

## 目次

幽玄の美 能面と能装束(前田育徳会展示室) ...2	平成十四年度友の会会員募集 .....5
幽玄の美 能面と能装束(第2展示室).....2	企画展示室、図書閲覧室NOW .....6
常設展示室 主な展示作品 .....3	企画展TOPIC、二月の行事案内他 .....7
美術館小史・余話(19) .....4	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...8
展覧会回顧(花と緑の名品展).....4	

ホームページアドレス <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

幽玄の美 能面と能装束

1月30日(水)~2月20日(水)

大河ドラマ「利家とまつ」の放映が始まりました。一月よりその放映に協賛した内容の展示を開催中ですが、今月は、前田家伝来の能面と能装束を特集します。加賀藩では、藩祖前田利家以来、歴代藩主たちが能を愛好しました。利家が殊の外、能を深くたしなむようになったのは、加賀金沢の城主となり、豊臣秀吉の側近となった頃からで、秀吉の能好きに刺激されたためといわれます。利家は「槍の又左」といわれるようにその武勇が信長に認められたのですが、一方「かぶきもの」といわれるだけあって、武勇一辺倒ではない、しやれものの一面をも合わせ持っていました。そのような利家が能に惹かれ、またその才能に恵まれていたことは当然ともいえましよう。

能楽は古くは猿楽の能と呼ばれ、室町時代に世阿弥によって幽玄能が大成されました。この時代には、茶道、華道、香道などの日本独自の芸道も生まれており、能もその一つです。そこには宗教的な部分が根底に流れています。この時代は決して泰平の世ではありませんでした。人の生死が、とりわけ死が身近に感じられる時代でした。それゆえに、人が生きて愛したり憎んだり罪を犯したりという、人間の存在が時代を超えて本質的に持っているそのリアリティーを表現する能は、現代のわれわれが想像する以上に、自己を取り戻すための心の慰めになったのではないのでしょうか。能は非常に簡潔な形で表現されますが、それがかえって人間の本质を純粹に、豊かな表現力で伝える手段となっているのです。戦国の武将である利家が能を好んだ理由には、このような能の成立を背景とした深い精神性があったと思われる。能を舞う利家の脳裏を去来するものはなんであったか、この能面と能装束をご覧になって、イメージ・シヨンを働かせるという、美の思索はいかがでしょうか。

当館が所蔵する能面・能装束の殆どは前田家旧蔵品です。特に能装束については、十二代藩主斉広なりなが(一七八二〜一八二四)・十三代藩主斉泰なりやす(一八一〜一八四)の治世期に制作されたものが大部分を占めています。文化八年(一八一)、金沢城二の丸の再建と斉広の家督相続・金沢入国を祝い、儀式能が行われます。これは藩政期最大の儀式能で、金春・宝生など多彩な流儀が揃えられました。のべ六日間にわたる儀式能に出演した能役者は、二百四十名以上にのぼります。再建された金沢城二の丸には、二つの能舞台がありました。菱櫓の横に位置した表舞台と居間の側に造られた奥舞台です。この「文化の大儀式能」よりわずか一カ月後には、表舞台にて斉広が自ら舞う大慰能が五日間にわたり行われています。以降、金沢城の両舞台において演能の機会が増えていくことから、能装束もあわせて盛んに制作されるようになるのです。

江戸期における能楽史を概観した時、能装束制作の最盛期は十八世紀中頃にあたる元文から宝暦年間であり、十九世紀に入ると衰退するのですが、加賀藩においては例外で、文化・文政期以降にそれが盛んであったのは、以上のような背景があるからです。

前田家旧蔵の能装束は、当館以外の美術館などにおいても確認できますが、豊紙よりその制作年代・制作背景・演目が判明する場合があります。例えば、「白地紋尽厚板」には、「御稽古物」と記されていることから、能装束には、稽古用とそれ以外が区別されていたことがわかります。

明治維新以降、能楽社会はしばらく混乱・低迷しますが、その復興に努めたのは斉泰でした。斉泰が「能楽」の用語の発案者とされることからわかるように、能楽社会における前田家の存在は大きいものでした。残念ながら前田家が所有した能面・能装束の多くは、大正・昭和期の売立により散逸しますが、本特集より、その繁栄の一端を紹介します。



白地紋尽厚板

常設展示室 第2展示室)

特集

NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

幽玄の美 能面と能装束

1月30日(水)~2月20日(水)

常設展示室

# 主な展示作品

1月30日(水)~2月20日(水)

● = 国宝      = 重要文化財      = 重要美術品  
 = 石川県指定文化財



女人俑(犬) 山口操助



翁 伝三光坊

## 前田育徳会展示室

NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

特集 | 幽玄の美 | 能面と能装束

若草

般若

紅地開扇亀甲模様唐織

花色地色絵花唐船模様縫箔

花色地福包みに戻り笛振太鼓模様舞衣

紫地牡丹折枝に蝶模様長絹

蝶蒔絵面箱

## 第1展示室

● 色絵雉香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清

## 第2展示室 (古美術)

古九谷

色絵布袋図平鉢

色絵鳳凰図平鉢

青手椿図平鉢

NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

特集 | 幽玄の美 | 能面と能装束

翁

小面

緑地桐鳳凰文唐織

濃茶地雛崩白躑躅金蝶文唐織

黒地丸紋尽縫箔

白地紋尽厚板

萌黄地竹桐文半切

## 第3・4展示室 (油彩画・彫塑・造形)

油彩画

酔って候

和伎母一隅

モンパルナスの部屋

待つ女

霜鬢

熱叢夢

女人俑(犬)

催眠術(袋)

鴨居 玲

高光 一也

藤井外喜雄

松本 昇

南 政善

宮本三郎

山口操助

吉田富士夫

彫塑・造形

女(ポニーテール)

青年

木陰の女

## 第5展示室 (工芸)

鶴図大皿

溜塗棚

鑄銅奩器「五陵」

友禅婦人室内用衝立

遠州風彫刻桑材飾棚

特集 | 輸出の華 | 明治の工芸

赤絵龍図花瓶

色絵金彩花詰蓋物

蒔絵棕櫚に芭蕉図聯

蒔絵釣燈籠図額

鉄打出狛犬大置物

金銀象嵌花鳥人物文薄端

織物紋様図

陶漆器物図

## 第6展示室 (日本画)

騷

三味線

八百屋の図

桃鶏図

椿壽

河のある街

冬山

桃に小禽図

畝村直久

竹下慶一

米林勝二

初代松本佐吉

大場宗秀

関 源司

中山修三

初代池田作美

石野竜山

清水美山

川之辺一朝

柴田真哉

山田宗美

銅器会社

上田珪草

北野恒富

紺谷光俊

鈴木華邨

畠山錦成

山本知克

由里本出

横山大観

このページでは各展示室作品の主なものを掲載しています。(第1展示室は色絵雉香炉二点のみ。)

観覧料

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	



騷 上田珪草



金銀象嵌花鳥人物文薄端 銅器会社



女(ポニーテール) 畝村直久



三月一日(金)から受付開始!!  
郵便でのお申し込みは郵便振替で  
平成十四年度

# 友の会会員募集

平成十四年度友の会会員は次の要領で募集いたします。現会員の方で継続をご希望される場合でも、改めてお申し込み下さい。お申し込みがない場合はそのまま退会となります。

募集定員 一、〇〇〇名  
会費 一、五〇〇円(郵送料と事務諸経費)

受付期間 三月一日(金)より開始し、募集定員に達し次第締め切ります。

入会手続き

次のA、Bいずれかの方法でお願いいたします。

A 当館へご来館になり、受付へお申し出下さい。会員証はその場で発行します。

当館中央ロビー奥の図書閲覧室で受付いたします。入会申込書は閲覧室内にも常備してありますが、現会員の方は今回同封の入会申込書(本ページ下図参考見本②)に所定事項をご記入の上、会費(現金)とともにお出し下さい。

受付時間は、休館日を除く午前九時三十分から午後四時三十分までです。

B 郵便振替用紙をご利用下さい。会員証は三月末から美術館だよりと共に郵送します。

同封の郵便振替用紙(入会申込書兼用、本ページ下図参考見本②)に所定事項をご記入の上、最寄りの郵便局窓口へお出し下さい。

郵便振替口座 00700017146490

加入者名 石川県立美術館友の会  
払込料金七十円は申込者負担となります。

会員証は『美術館だより』と一緒に、三月末頃からお送りする予定です。

図書閲覧室受付専用紙(下図参考見本②)や返信用封筒、返信用切手は必要ありませんので、郵送しないで下さい。

振替用紙の受領証は、会費送付の証明となるものですから、お手許で大切に保管しておいて下さい。

郵便局備え付けの振替用紙をご使用の場合は、通信欄に左記事項をご記入下さい。

年齢 性別 会員の区別(継続・新規・元) 職業  
継続会員の方は現会員番号(会員証裏面左上の番号)その他

会員証の有効期間は平成十四年四月一日～十五年三月末日です。

会員証提示による入館料割引は、会員証表記の一名と同伴者二名の、合わせて三名までに限ります。

当会には毎年多数の方がご入会になります。会員証は一人一枚が原則ですが、より多くの皆様に美術館の活動内容を知っていただきたいため、ご家族でお申し込みの場合の会員証は、一族につき一枚発行(ただし会員証に記載できるお名前は三名まで)にさせていただきます。なおこの場合の会費は一名分で結構です。

一度納入された会費は、お返しいたしません。会員証紛失による再発行はいたしません。

一度納入された会費は、お返しいたしません。会員証紛失による再発行はいたしません。

## 会員の特典

入館料の割引

受付での会員証提示により、当館主催展覧会観覧料が団体料金なみに割引されます。また石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館の各館主催展覧会でも同様の扱い(ただし本人のみ割引)となります。

『石川県立美術館だより』の郵送

当館の最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより』(毎月一日発行)が毎月郵送されます。

## 今回同封した入会申込書(参考見本)

a. 当館図書閲覧室受付専用です。

b. 郵便申込専用です。ご使用の場合には、必ず郵便局窓口へお出し下さい。

石川県立美術館友の会 入会申込書 <small>図書閲覧室受付専用</small>			
No.	継続会員・新規会員・元会員 (いずれかを○で囲む)	月	日
<small>(この番号は係員が記入)</small> 現在の会員番号 (No. <input type="text"/> )			
<small>(会員証裏面左上の番号)</small>			
住所	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/>		
氏名	フリガナ	年齢	才
		性別	男・女
職業	学生・会社員・公務員・団体職員・教員 自営・医療関係・美術関係・主婦・無職 その他 ( )	電話	自宅 ( ) - <input type="text"/> 勤務先等 ( ) - <input type="text"/>
	<small>*該当するものうち一つだけ○で囲んで下さい。</small>		
備考	自宅 ( ) - <input type="text"/> 勤務先等 ( ) - <input type="text"/>		

\*受付は3月1日(金)からです。  
\*この入会申込書は図書閲覧室受付専用ですので郵送しないで下さい。郵便でのお申し込みは郵便振替用紙をご使用下さい。

払込取扱票		払込金受領証	
00	00700017146490	00700017146490	00700017146490
金額	1500	金額	1500
石川県立美術館友の会		石川県立美術館友の会	
石川県立美術館友の会入会申込書 <small>郵便振替申込専用</small>		石川県立美術館友の会	
1. 継続会員 → 現在の会員番号 ( ) 新規会員・元会員		石川県立美術館友の会	
2. 年齢 ( ) 才		石川県立美術館友の会	
3. 性別 男・女		石川県立美術館友の会	
4. 学生・会社員・公務員・団体職員・教員・自営・医療関係・美術関係・主婦・無職・その他 (該当するものうち、一つだけ○で囲む。)		石川県立美術館友の会	
ご依頼人	受付局日附印	ご依頼人	受付局日附印
料	金	料	金
円		円	

## 企画展示室

### 第5回石川県日本画協会展

二月一日(金)～六日(水)  
(第8・9展示室)

県内在住の日本画の作家を中心とした会員の、県内未発表作品による展覧会です。各種公募展の枠組みや既存の概念にとらわれる事のない自由な作品発表を目指し、会員それぞれが取り組んでいる日本画制作の研究・模索の発表の場、また研鑽の場ともなっています。ペテランから若手まで幅広い層にわたり、広く県内日本画家の作品および近年の活動を知る上で、絶好の機会となっております。

入場無料

連絡先 能美郡辰口町松が岡四 三〇 上口文治  
☎〇七六一 五一 六八一五

### 第9回北陸国画グループ展(絵画・写真)

二月九日(土)～十三日(水)  
(第7・8・9展示室)

北陸国画グループ展は、国画会会員の柏健が中心となつて呼びかけた北陸三県の国画会出品者を主体として構成されています。国画会は、毎年春に本展を開催し、本年度で第76回を迎える公募団体です。今回のグループ展の出品者は絵画部の安達博文、寺田栄次郎、開光市、前田昌彦ら二十一名、写真部の富岡省三、木村英典、中川保雄、野村輝久ら二十三名が参加し、力作を二、三点ずつ発表します。安井賞、昭和会賞などでの受賞者も多く、ハイレベルな作品が期待されます。是非ともご覧下さい。

入場無料

連絡先 金沢市大桑町平四二 一〇〇  
大桑町住宅一 一〇四 原 崇浩  
☎〇七六一 二四七 七二七四

### 第25回金城大学短期大学部美術学科卒業制作展

二月十六日(土)～十八日(月)  
(第7・8・9展示室)

本学美術学科の卒業制作展は二十五回目となります。今年度はデザイン四十二点、日本画四十点、油画二十一点、染色・ファッション二十七点、陶芸・オブジェ十二点の合計百四十二点を出品の予定です。また各部門の研究生の作品が加わります。是非ともご覧の上、厳しいご批評をいただければ幸いです。

入場無料

連絡先 松任市笠間町二二〇〇  
金城大学短期大学部 堀 一浩  
☎〇七六一 二七四 四四二一

### 金沢大学教育学部美術教室卒業・修了制作展

二月二十三日(土)～二十六日(火)  
(第7展示室)

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学部、大学院、内地留学生による平成十三年度卒業修了作品及び論文等パネルを展示します。これらは、教員のほか、多様な分野へ進出をめざす学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、かつ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は数十点、是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

入場無料

連絡先 金沢市角間町 金沢大学教育学部美術教室  
宮下孝晴  
☎〇七六一 二六四 五五八三

### 2002毎日現代書北陸代表作家展

二月二十三日(土)～二十八日(木)  
(第8・9展示室)

わが国の書展で最大規模と歴史を誇る毎日書道展に結集する、北陸三県に在住する代表作家の作品を、一堂に集めたスケールの大きな書道展です。出品作家は日本の書壇を代表する毎日書道会理事をはじめ、三県の参与、審査会員、会員のほか気鋭の選抜の方々です。作品は約百七十点にのぼり、漢字、かな、近代詩文書、

大字書、篆刻、刻字、前衛書とあらゆる分野を網羅しており、多彩な現代書的美を感じとっていただけるはず。多くの方々のご来場をお待ちしています。

入場無料

連絡先 金沢市広岡一 二二〇 毎日新聞社北陸総局  
☎〇七六一 二六三 八八一

## 図書閲覧室NOW

### 新着図書紹介

今回は、日本画家の作品集を二冊ご紹介いたします。

一冊目は「越智正治 画集」です。越智氏は、昭和十七年富山県高岡市に生まれ、金沢美術工芸大学日本画科を卒業、東京芸術大学大学院で研鑽を積みました。主に院展をその活動の舞台とし、昭和六十一年には、当館で開催した「石川県作家選抜美術展」にも出品していただきました。草花を中心にした、重厚な色彩の深遠な空間表現からは、自然の生の鼓動が静かに伝わってくるようです。

二冊目は「林功人と作品」です。林氏は、昭和二十一年、千葉県茂原市に生まれ、東京芸術大学日本画科を経て、同大学院に学んでいます。越智氏と同じく院展を中心に活躍、東洋の名画の模写など、その技術は高く評価されていました。林氏の作品は、明るい色彩と巧みな構成によって、華やぎと静けさが融合し、清雅な気分をたたえています。

奇しくも兩人とも五十四歳という、画家として脂ののりきつた時期に逝かれてしまったのですが、この作品集からは、その画業の一端をうかがうことができるのではないかと思います。

\* 開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、「コピーサービス」は行っておりません。



大皿 飾り魚 釉陶 昭和45年 個人蔵

企画展TOPIC

大樋長左衛門の作陶世界 その一

大樋長左衛門氏は、九代大樋長左衛門の長男として、昭和二年金沢市に生まれました。大樋焼は、江戸時代から現在も続く楽焼で、京都楽家の技術を直接受け継ぐ、ただ一つの地方窯として知られていますが、伝統ある茶陶を受け継ぐだけでなく、日本芸術院会員でもある氏は、日本を代表する気鋭の現代陶芸作家として、その活躍はつとに知られています。

春の展覧会では、日展等に発表してきた展覧会出品作品と、茶碗をはじめとする茶陶類、そして陶額や陶壁（写真パネルで紹介）、また雅味あふれる書画類を織り交ぜ、氏の幅広い創作の歩みを展示するものになります。ここで、三回にわたりその創作世界を紹介することになり、第一回目の本稿は、作家として地位を固めるうえで重要な意味を持つ作品を紹介します。

当然のことながら、五十七年の第一四回改組日展で文部大臣賞を受賞した「歩いた道花器」（日本芸術院蔵）と、六十年に日本芸術院賞を受賞した「時つ花三島飾壺」（前年の日展出品作／東京国立近代美術館蔵）はまず第一にあげなければならぬ作品です。前者は、宋代の柿天目釉を思わせる独特の鉄釉を肩

から下へ全面に掛け、浮彫された線や点が思い通りに施されています。また、口部は対照的にあたたかみのある白釉を掛け、愛らしい簡潔にモデリングした動物模様を置き、心む作品となっています。

後者は、それまでに取り組んできた三島手シリーズの集大成とも言つべき作品で、屹立する無駄のないシャープな形と三島手の白泥象嵌の清楚かつ豊かな律動感があいまって気品に

満ちたものとなっています。ともに日本はもとより、東洋陶磁の伝統的な技法を消化して現代的表現へと転化する卓抜な技量が、存分につかえる作品と言えます。そして日展などの公募展出品作以外にも多くの力作を発表しています。例えば、昭和四十五年に発表された「飴釉魚譜飾大皿」は六十cmを超える大作で、海中を思わせるかのような複雑な布目を持つ見込の中に四つの窓を抜き、陶彫で魚などを描いており、陶壁にも通じる力作です。この作品を見ると、伝統的な飴釉が現代陶の世界にまったく違和感なく溶け込んでおり、ある意味で、大きな手応えを作者自身がかんじだかもしれないとまでも思えるものです。

（寺尾健一 学芸専門員）

「日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界」展は四月下旬に開催予定です。

各地の展覧会

一月

- 開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
- 横山大観 「その心と芸術」 2/19～3/24
  - 東京国立博物館平成館（東京都台東区・〇三） 3/18～3/22
  - 工芸風土記・志 1 諸国やきものめぐり 後期 2/9～3/10
  - 宮内庁三の丸尚蔵館（東京都千代田区・〇三） 3/11～3/12
  - 国宝 鑑真和上展 2/17まで
  - 名古屋博物館（名古屋市中瑞穂区・〇五一） 八五三 二六五五
  - お水取り 2/19～3/17
  - 奈良国立博物館（奈良市・〇七四） 一三二 七七七
  - 聖徳太子展 2/11まで
  - 大阪市立美術館（大阪市天王寺区・〇六） 六七七 四八七四

次回の展覧会

特集 春の優品展 （前田育徳会展示室）  
（第2～6展示室）  
二月二十三日（土）～三月二十八日（木）

二月の行事案内 《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
2/2（土）	土曜講座	常設展示案内 能面と能装束 加賀藩主と能 作品解説を含むため、常設展示観覧料が必要です。	講義室
2/3（日）	月例映画会	重要無形文化財 輪島塗に生きる（35分）	ホール
2/9（土）	土曜講座	仏像 40 聖楽のほとけ	講義室
2/10（日）	CDコンサート	バッハのカウンター	ホール
2/16（土）	土曜講座	J.S.バッハ カンタータ第21番「私は憂いに満ちている」(約40分)	講義室
2/17（日）	月例映画会	自然との対話 日本美の彩り	講義室
2/23（土）	土曜講座	能登上布（30分）	ホール
2/24（日）	月例映画会	ニコロス・プッサン 人と芸術	講義室
		友禪 中村勝馬（25分）	
		鍛金 奥山峰石のわざ（30分）	ホール

今月の全館休館日は二月二十一日（木）・二十二日（金）です。



きりかねさいしきこうす はなもりいぬ  
**截金彩色合子「花守犬」**

西出大三

大正2年(1913)~平成7年(1995)

昭和48年 1973

第20回日本伝統工芸展

縦11.0 奥行7.5 高13.5(cm)

ぼつてりとしたポリユームのある身体つきをした犬が、やや口を開いて夢見るように顔を空へ向けています。上部がかぶせ蓋で、開けるとさらにつまみの付いた中蓋があり、内部にも金箔が散らされた丁寧な造りの合子です。

確かな木彫技術に裏付けられた優美な器体に、岩絵具で彩色し、直線やひし形などに切り抜いた金箔や銀箔で形作った花が施されています。淡い彩色と繊細で華やかな花が表面に奥行きを加え、あどけない表情とあいまって、人気のない野原でひっそりと花守をする犬の、幻想的な雰囲気が感じられます。

この作品の装飾技法を截金きりかねといいます。これは平安時代後期、いわゆる藤原時代の仏像の加飾法の一つで、

鎌倉時代に入って仏教美術が凋落するとともに次第に衰退しました。金箔や銀箔を細い線や三角、四角などの幾何学的な形に切つて貼ることににより、金泥描きなどでは表せない、強い輝きとシャープな線の表現によつて、華やかで効果的な装飾となります。

作者の西出大三にしでだいぞうは、石川県加賀市に生まれました。昭和十二年(一九三七)に東京美術学校(現東京藝術大学)彫刻科木彫部を卒業し、在学中より取り組んでいた藤原時代の截金や仏画・仏像の彩色法の研究を展開し、独自の「木彫彩色截金」の作品を制作し始めました。昭和六十年(一九八五)に截金で重要無形文化財保持者に認定されています。

ミュージアムショップ通信

今月の常設展古美術部門は、二室とも恒例の能楽特集です。展示室中央のソファに腰掛けて、心静かに眺めていると、どこからか謡曲の調べが幽かに聞こえてきそうな雰囲気。

さてこの能楽を始め、美術館の所蔵品はホームページでも公開されています。インターネットが使えるお宅の方は、ためしにちよつと開いてみて下さい。アドレスは表紙参照のこと。

開いたら、まず画面上の「日本語」を選択、「所蔵品データベース」、「様式・テーマから」、「形態」、「次へ」、「能面」または「能装束」の順にカチカチとクリック。すると、「おっ、能面は三十六点、能装束は十七点が即座に出てくる、しかも拡大画像と解説付き。(ただし、前田育徳会所蔵品は出てきません。悪しからず。)



「緑地桐鳳凰文唐織」ハンカチ (定価1,200円)

迫力は、実物を目の当たりにして、初めて「む、これは、す…凄い！」と、実感できるものでしょう。ショップにも、「緑地桐鳳凰文唐織」の文様をアレンジしたハンカチが並びます。記念品にお手頃ですね。

休館日

二月二十一日(木)・二十二日(金)

石川県立美術館だより

第二二〇号 平成十四年一月一日発行

〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(二三一)七五八〇

FAX 〇七六(二二四)九五五〇